

令和3年度東京都立清瀬高等学校 経営計画

1 目指す学校

- (1) 教育活動の根本に人間尊重の精神を置き、基本的な生活習慣を身に付けた互敬を体現できる人材を育成する学校。
- (2) 教科指導を充実させ、生徒が掲げる高い進路目標を実現させる学校。
- (3) 学校行事や部活動を重んじ、感動や忍耐、友情を高め合う体験を重ねさせ、あきらめずに最後までやり抜く態度を育成する学校。
- (4) 体罰・いじめ等の発生防止の徹底に取り組み、保護者や地域から信頼される学校。

2 中期的目標と方策

- (1) 生徒の第一希望を実現するため、安定的に高い進学実績に結びつけられる進路指導体制を確立する。
- (2) 学習の基礎・基本を定着させ、アクティブ・ラーニング型授業を推進し、高い学力を身に付けるために授業力の向上に努め、きめ細かい学習指導を展開する。
- (3) 社会の一員として、自立した生徒を育成するため、あらゆる教育活動を通じてチャレンジ精神と主体的に取り組む姿勢を育成する。
- (4) スポーツ特別強化校、文化部推進校として、部活動全般の活性化を図り、体力向上と心と体の健康を促進する。
- (5) 組織的広報活動を展開し、本校の教育活動を保護者をはじめ、地域・中学校等へ計画的かつ適時に発信していく。

3 今年度の取組目標と方策

(1) 教育活動の目標と方策

①学習活動

- ア 生徒の進路希望に合わせ、3年間の教科指導計画を策定する。また、教科会を活用し、授業担当者で、綿密な共通理解を図り、内容・指導レベル等について質・量とも適切な授業を教科として提供する。
- イ 「学力スタンダード」に対応した年間授業計画を作成するとともに、明確な目標に基づいた指導と評価を行うことで、指導内容・方法の改善を図る。
- ウ 各教科において模擬試験の分析を行い、生徒の弱点を把握し、その後の授業において改善を図る。
- エ 大学入学共通テストに向け、全教員がアクティブ・ラーニング型授業を積極的に展開し、生徒が能動的に授業に参加する姿勢を育成する。
- オ 習熟度別授業を国語、英語で実施し、各教科の指導効果を強化する。
- カ 長期休業日等の講習、補講について、各教科の総力をあげ、組織的に計画・実施・検証を行う。
- キ 家庭学習の習慣を身に付けさせ、自学の習慣を定着させる。また、チューターを活用し自主学習を促進する。
- ク OJTとして教科内外を問わず、授業参観を全教員で実施し、教員相互の授業力の向上を図る。また、指導教諭等、他校の授業を積極的に見学し、教科指導方法の改善に努める。
- ケ オリンピック・パラリンピック教育を推進し、体力の向上に努めるとともに、世界の多様な国々の歴史や文化を学ぶ。
- コ 海外学校間交流推進校として、Holy Spirit College との交流や留学生との交流、TGG 訪問等を活用し、語学力と豊かな国際感覚を養う。
- サ 理数研究校として、理数に興味・関心をもつ生徒の裾野を拡大するとともに、優れた素質をもつ生徒の発掘とその才能を伸ばす。
- シ コロナ禍の対応として、ネットを活用した授業の導入と課題配信等により教室と同等の授業を提供する。

②進路指導

- ア 進学指導研究校として、国公立大学、難関私立大学、GMARCHといわれる大学を中心とした生徒の第一志望校合格を目指し、進路指導部が主導的立場で、各学年と連携を図りながら、組織的な進路指導の充実を図る。
- イ 進路シラバスに沿って、全教職員が組織的な進路指導を行い、特に国公立大学への進路実現を図る。

ウ 進路情報等をタイムリーに提供し、生徒の進路実現へのモチベーションを高めるとともに、生徒の向学心とチャレンジ精神を継続させる指導を行う。

エ 教員による模試分析会とケース会議を実施し、情報の共有化を図り、教科指導と進路指導につなげる。

オ 課題配信、模試結果の情報共有、学習時間の把握等、クラッシーの組織的な活用を進める。

カ 生徒一人一人の進路希望実現に向け、進路意識を高め、主体的な進路選択ができるよう計画的なキャリア教育を進める。

③生活指導

ア 社会人として必要な礼儀やマナーを指導し、生徒の自律心を磨き、国際的にも通用する社会性を高める。

イ 遅刻、頭髪、制服指導は、生活指導部が中心となり、学年、家庭と連携し、組織的、継続的に取り組んでいく。

ウ 時間厳守を徹底し、学習と部活動等との両立ができる文武両道のけじめある生活習慣を確立させる。

エ 学校行事において生徒の主体性を育み、生徒の委員会主体で運営できる組織的な学校行事を確立する。

オ 道徳の指導を充実させ、奉仕や思いやりの心と公共心を育成し、健康で安全な生活に必要な能力と態度を育てる。特にいじめは絶対に許さない心情と態度を養う。

カ 生徒自らが自己の安全を確保できるよう指導し、合わせて地域社会への共助、貢献する心を育てる。

④特別活動・部活動

ア 障害のある児童・生徒との交流を通じ、多様性の尊重、障害者理解といった心のバリアフリーを育てる。

イ 読書感想文コンクールや書評合戦を実施し、読書活動を推進する。

ウ 生活指導部、学年及び部活動顧問が連携して部活動加入を促進し、各部活動の活性化・充実を図る。

エ 部活動顧問も、生徒の学力の把握を定期的に行い、クラス担任や教科担任と協力し、生徒の学力向上の支援に努める。

オ スポーツ特別強化校、文化部推進校として、指定部活動の一層の強化と、他の部活動の活性化を図る。

カ 部活動を通じて、主体的に行動する力を養い、地域社会に貢献する態度を育成する。

キ 文化・スポーツ等特別推薦の実施により、応募倍率を上げ、部活動と学校全体の活性化を図る。また、成果を全教員で検証・共有する。

⑤健康・安全

ア 学校保健計画に基づき、保健委員会が中心となって生徒の健康の保持増進を図り、安全確保を徹底する。

イ 教育相談の機能をより充実させ、生徒の心と身体の悩みに対応し、自殺、いじめ等の問題行動を防止するとともに、生徒の精神的自立に向けた取り組みを推進する。

ウ 避難訓練、薬物乱用防止教室、セーフティ教室等を活用し、自他ともに命の大切さについて考えさせる。

エ 都の改修計画を見据えながら、経営企画室が中心となった施設・設備の老朽化対策を行う。

(2) 広報活動

ア ホームページの更新を毎日行うことで、本校の教育活動をタイムリーに発信し、本校生徒及び保護者、中学生やその保護者、地域の方々の理解と信頼を得る。

イ 全教職員協力の下、校内での学校説明会・学校見学会、校外での学校説明会・出前授業・塾訪問等で広報活動を行う。

ウ 校内での学校説明会と学校見学会において、生徒が自主的・主体的に清瀬高校をアピールする姿勢を育成する。

エ 地域社会や近隣小学校、中学校と学習支援、部活動や生徒会活動等で連携し、地域に密着した教育活動を行う。

(3) 学校運営

ア ライフワークバランスの推進に向け、各種会議の開催時間厳守と50分以内の会議運営、留守番電話機能の導入とクラッシーを利用した欠席連絡により業務の効率化を図る。また、部活動の外部人材の活用を積極的に進め、部活動業務の削減を図る。

イ ライフワークバランスの推進に向け、定時退庁ウィークを年2回定め、その期間中は可能な限り定時退庁を働きかけ、在校時間を短縮する。

ウ 企画調整会議の内容の周知を徹底し、全教職員が同一の方向に向かった教育活動を行う。

エ 教科会、教科主任会、主幹教諭会議や拡大分掌会を開催し、組織的・継続的な学校運営を行う。

オ OJTを活用した人材育成を浸透させ、管理職候補者、主幹教諭、主任教諭の育成に努め、ライン強化を図る。

カ 経営企画室による学校経営参画を進め、企画室職員と教員が連携した学校運営を推進する。

キ 体罰防止、服務事故防止及び個人情報管理についての意識を高め、組織的に安全管理を実施する。

- ク あじさいウィーク、学校開放、奉仕活動等を通して地域や保護者と連携した開かれた学校づくりを推進する。
- ケ ネットを活用した授業等がスムーズに行える校内環境を整備する。

4 重点目標と方策（ ）内数値はR2実績

(1) 学習指導—組織的、計画的な教科指導の充実

- ア 教科主任を中心とした組織的な教科経営を図る。
- イ 生徒が能動的に授業に参加し活動できる授業方法の改善を図る。
- ウ 生徒の自学習慣を定着させる。

【数値目標】1、2年生の自学時間：1日平均120分以上（58分）

授業満足度：80%以上（73.4%） 長期休業中の開講講座数80講座以上（23講座）

(2) 進路指導—国公立、私大難関大学等第一志望校への進学実現

- ア 進路指導部を中心として1年生から進路意識の向上を図り、3年間の組織的、計画的な進路指導を行う。
- イ 進路シラバスに沿って模試分析会、ケース会議等を実施し、生徒個人に沿った進路指導を行う。
- ウ 個人面接等を丁寧に実施し生徒が高い目標に対してあきらめずに努力できる指導を継続する。

【数値目標】国公立大学現役合格者数：22名以上（21名）、難関私立大学現役合格者数：15名以上（14名）

GMARCH現役合格者数：95名以上（94名）

(3) 生活指導—自律した生活習慣の確立

- ア 時間の自己管理ができ、けじめのある生活習慣を身に付けさせる。
- イ 挨拶の励行、服装、礼儀、言葉遣い、交通安全の指導を通年で行う。

【数値目標】生徒の学校生活満足度：85%以上（82.9%） 交通事故：0件（0件）

年間遅刻者数：1500回以下（1632回）

(4) 特別活動・部活動—気力、体力の充実と向上及び学習と部活・行事との両立

- ア 自主的な行事の企画、実施、参加を通して生徒の主体性を養う。
- イ 言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊かにするため読書活動を推進する。
- ウ 部活動に集中力をもって組織的に参加させ、達成感や充実感が得られるよう指導する。

【数値目標】図書貸出数：1000冊（862冊） 部活動参加者数：97%以上（95%）

部活動都ベスト32以上の成果：10部（9部）

(5) 健康・安全—校内の学習環境の整備と生徒の健康の保持増進

- ア 心と体の両面から生徒の健康管理に努め、生徒の精神的自立を促す。
- イ 自分たちが生活している学校美化に努めさせ、感謝の気持ちを養う。

(6) 広報活動—清瀬高校の教育活動、魅力を広く紹介するための広報活動の充実

- ア 本校の求める意欲ある生徒を確保するために広報活動を充実させる。

【数値目標】ホームページ更新回数年間：450回（417回） 学校説明会参加者数：3000人（2274人）

入試倍率：推薦3.00倍以上（2.85倍） 一般1.35倍以上（1.31倍）

(7) 学校運営

- ア 本校独自の特色を再認識し、教育活動をより効果的なものにするための組織的な学校運営体制の再構築を行う。
- イ 経営企画室と教員との連携を強化し、経営参画意識を高める。